

<p>平成 24 年 7 月 3 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>7 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

平成 24 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です (6/15～9/14)
～周辺作物への飛散防止対策を講じ、農薬は正しく使いましょう～

＜ 目 次 ＞

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<h3>【注意すべき病害虫】</h3>	
<p>水稲：いもち病(葉いもち)</p>	1
<p>防除所レポート(葉いもち)</p>	1
<p>水稲：斑点米カメムシ類</p>	2
<p>ナシ：黒星病</p>	2
<p>ナシ：ナシヒメシンクイ</p>	3
<p>防除所レポート(ナシヒメシンクイ)</p>	3
<p>果樹共通：カメムシ類</p>	4
<p>防除所レポート(チャバネアオカメムシ)</p>	4
<p>防除所レポート(イネ縞葉枯病)</p>	5
<p>【その他の病害虫】</p>	6
<p>水稲，サツマイモ，ナシ，ブドウ，抑制トマト，夏ネギ</p>	
<p>II. 今月の気象予報</p>	
<p>7</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p>水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とすること。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p>	
<p style="text-align: center;">茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445</p>	
<p style="text-align: center;">予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p>	
<p style="text-align: center;">ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾は0（平年値0.3、過去11年中11位）と平年より少ない。
- ② 6月下旬現在、調査圃場周辺における葉いもちの発生は、平年より少ない。
- ③ 6月におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM²⁾による）の出現日数は、平年より少ない。
1) 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

[防除上注意すべき事項]

- ① 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ② 例年、梅雨明けまでは、発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも、今後とも注意する。
- ③ 発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。その後、生育に応じた適正な水管理にもどす。
- ④ 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田及びその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。

防除所レポート [BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の状況について]

- ① 6月中の県内アメダス地点14か所におけるいもち病感染好適日※（BLASTAMによる）の出現日数の合計は、0（平年値22）と過去11年中11位と少ない（表）。
- ② 葉いもちの発病の増加は、感染好適条件が出現した日から7～10日後と考えられる。曇雨天が続く等、発病の好適条件が見られる場合はいもち病の発生に注意する。
※感染好適日：当日の葉面湿潤時間が一定以上、前5日間の平均気温が20～25℃。

表 いもち病感染好適条件出現日数(6/1～6/30)

年	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	平年値
感染好適条件出現日数	15	28	12	7	21	48	9	22	36	22	0	22

(水稲 続き)

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生量は平年よりやや少なく、発生地点率は平年並である。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草において、本県の主要種であるクモヘリカメムシは平年同様確認されていない。
- ③ 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年よりやや遅いと推定される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稲の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病葉率は平年より高く（本年 1.8%、平年 0.7%）、発病果率は平年よりやや高い（本年 0.5%、平年 0.2%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 発病が確認された圃場では、発病部位を除去した後に薬剤防除を行う。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(平成 24 年 6 月 18 日発表 病害虫発生予察注意報第 3 号参照)

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月第5半旬現在、県予察圃（笠間市）に設置したフェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は、平年よりやや多い。
- ② 6月下旬現在、フェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は、笠間市で平年より多く、かすみがうら市及び土浦市では平年並である。
- ③ 6月下旬現在、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 昨年、ナシヒメシンクイによる被害が多発した園では、下記の防除所レポートを参考に、追加防除を実施する。

防除所レポート [積算気温によるナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、**第二世代成虫の誘殺最盛期**である。
- ② ナシヒメシンクイの発育に有効な気温の積算値から、次世代成虫（第二世代）の誘殺最盛期を予測すると、表の結果となる。
- ③ 発生時期の予測は7月2日現在であるので、今後の情報を引き続き参考にする。

表 ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期

地点	第二世代成虫の 予測される誘殺最盛期 ¹⁾	第一世代成虫の 誘殺最盛期 ²⁾	越冬世代成虫の 誘殺最盛期 ²⁾
茨城町	7月第6半旬	6月第5半旬	4月第6半旬
笠間市（旧友部町）	7月第6半旬	6月第5半旬	5月第1半旬
笠間市（旧岩間町）	7月第6半旬	6月第5半旬	4月第6半旬
小美玉市	7月第6半旬	6月第6半旬	5月第1半旬
かすみがうら市	7月第5半旬 [※]	—	4月第6半旬
土浦市	7月第5半旬	6月第4半旬	5月第1半旬
筑西市	7月第5半旬 [※]	—	5月第1半旬

1) ナシヒメシンクイの発育零点を11.1℃とし、第一世代成虫の誘殺最盛期からの有効積算温度が384日度となる日を予測（7月2日現在）。

※ 第一世代成虫の誘殺最盛期が不明瞭であるため、越冬世代成虫の誘殺最盛期から予測した。

2) 各地点に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ成虫の誘殺最盛期

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、果樹園に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数はかすみがうら市で平年より多く、笠間市で平年よりやや多い。
- ② 一部のナシ及びブドウ圃場で、チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温が高いと活動が活発になり、果樹園へも飛来するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。

(平成24年6月25日発表 病虫害速報No.2参照)

防除所レポート [夜間温度とチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺]

- ① カメムシ類は夜温が高いと活動が活発になり、果樹園に設置した予察灯への誘殺数も多くなる傾向がある(図)。
- ② 夜間の降雨状況によっては、夜温が高くても予察灯への誘殺数は少なくなる場合がある。

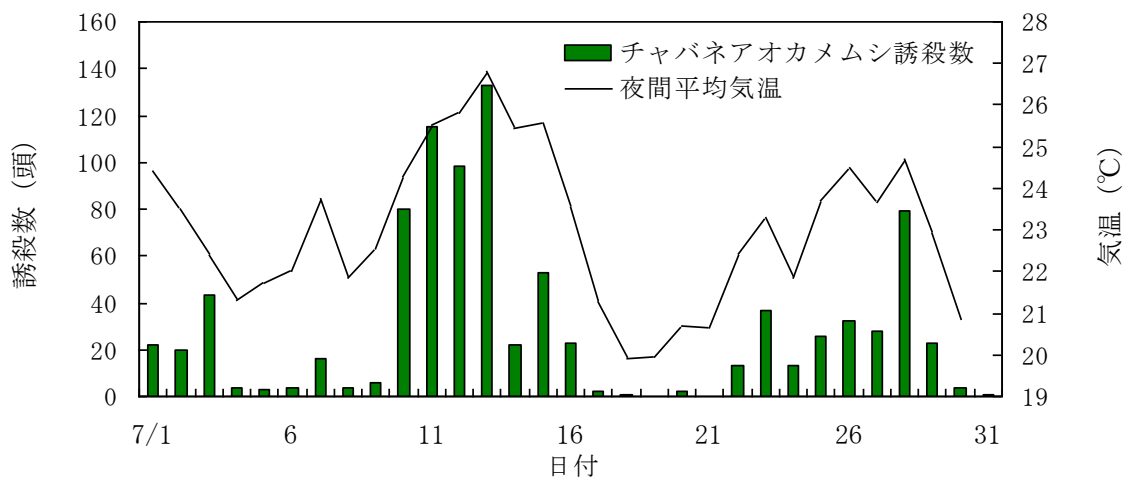


図 カメムシ類が多発生した平成18年の夜間平均気温(17時～翌7時)とかすみがうら市に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数

イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生状況について

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病で、ここ数年筑西市を中心に再び発生が見られるようになった。昨年も県西地域を中心に発病を確認しており（図1）、今年も発生が懸念されている。媒介虫のヒメトビウンカは季節により生息、繁殖地が異なり（図2）、春は主に麦等で生息、繁殖する。小麦圃場でヒメトビウンカが多発生したり、イネ縞葉枯病ウイルス（以下RSVと記載）保毒虫率が高くなるとイネ縞葉枯病の発生が多くなる。ここでは、今年度の小麦圃場におけるヒメトビウンカの状況とRSVの保毒虫率について報告する。

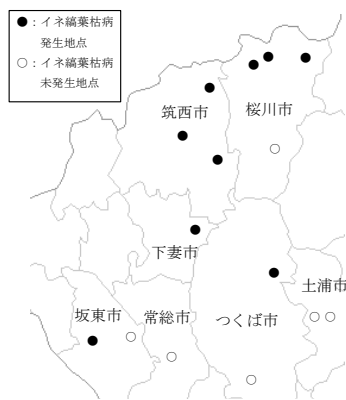


図1 平成23年巡回調査等におけるイネ縞葉枯病の発生状況

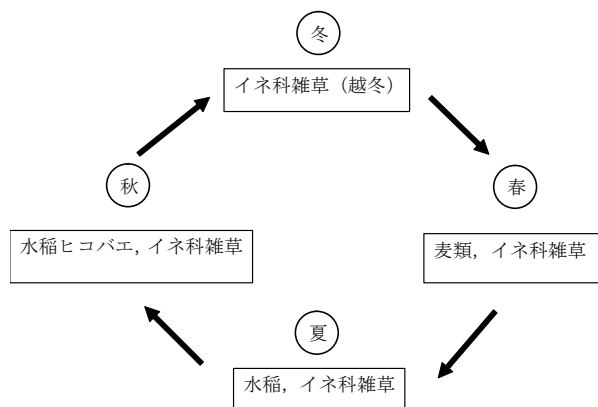


図2 ヒメトビウンカの季節による主な生息、繁殖地

平成24年6月5日に筑西市等の小麦圃場で、10回振りすくいとりによる採取虫数の調査を行った。その結果、地点によりばらつきがあったが多発生の地点は見られなかった（表1）。また小麦圃場で採取した幼虫について、ラテックス凝集反応法によりRSV保毒虫率の調査を行った。その結果、筑西市二木成では高い保毒虫率となった（表2）。今後、本田でヒメトビウンカの発生量が多くなると、縞葉枯病の発生も多くなる可能性がある。引き続き調査を行うので、今後の情報に留意する。

表1 小麦圃場におけるヒメトビウンカすくいとり虫数（頭/10回振り）

調査地点	筑西市二木成			筑西市 野殿			筑西市 野田			結城市 結城		
	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
H24	4	23	27	—	—	—	11	69	80	12	9	21
H23	4	118	122	8	82	90	—	—	—	1	4	5
H22	1	18	19	0	7	7	—	—	—	0	7	7
H21	—	—	—	7	28	35	1	11	12	1	7	8

—は未調査

表2 小麦圃場におけるヒメトビウンカRSV保毒虫率

地点	保毒虫率(%)	(参考)
		H23の保毒虫率(%)
結城市結城	1.4	0
筑西市二木成	26.0	5.6
筑西市野田	12.5	—
筑西市野殿	—	6.6

—は未調査

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	紋枯病	発生量：平年並	稲の生育が軟弱になっていると、被害が大きくなるので注意する。
	稲こうじ病	発生量：－	穂ばらみ期～出穂期にかけて、低温で降雨が続くと発生が多い。常発地では防除を行う。
	縞葉枯病	発生地域：県西地域 発生量：やや多い～多い	県西地域におけるヒメトビウンカ第一世代の保毒虫率は、筑西市二木成周辺で高い。(P.5 防除所レポート参照)
	イネツトムシ	発生時期：やや遅い 発生量：やや少ない	6月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。7月下旬～8月上旬に発生が多い場合には、幼虫が小さいうちに防除を実施する。
サツマイモ	イモキバガ (イモコガ)	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ナシ	アブラムシ類	発生量：少ない	6月下旬現在、平年より少ない発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
抑制トマト	黄化葉巻病	発生量：－	生育初期に感染すると被害が大きくなるので、育苗～定植時期の防除を徹底する。
夏ネギ	ネギハモグリバエ	発生量：多い	6月下旬現在、平年より多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月30日から7月29日)

気象庁(6月29日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 6月30日(土曜日)から7月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 7月7日(土曜日)から7月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 7月14日(土曜日)から7月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。